

空見る仔

緋色の空

ボクラは此処にいる

機能的 且つ 筋張った 骸骨

空を突き刺す エントツ

立ち昇る 白煙 脱硝

動く歯車 生きた部品

なければ 困る

が

なければ 補充する

機械化されたボクラは

人の世の栄華を謳歌しよう

緋色

それは 血をぶちまけた色

残渣

此処が、ボクラの、

見てもないのに 六時のニュース
イイ匂い ママ 夕飯の支度
寝っ転がった ボクは 漫画に釘付け
「お皿運んで！」
「ちょっと待って！」

カーカーカー 夜告げるカラス
キーキーキー 母さん 怒って
漫画を閉じて カーテンも閉めて

PM6:00

ジュリーがワンワン 玄関ガチャリ
「ただいま」
「おかえり」
あたらしいパパ

隠れんぼ 鬼さん まあだだよ / お陽さま 落ちた 暗い空
お家に 帰ろう 通せんぼ / ねえねえ 繰り返す あそび歌
しいん 聞こえない いない / いない ばあ 風もない
かさり草陰 揺れた だれ / 呼んでも 振り向くな 答えるな

逢う魔が時

足下の小さき者

じいさまが、何か小さなお話でもしてやろうと言った。

地面にぺちゅんと座った小さな子供は、小枝に腰掛けたじいさまに、目をぐりんぐりんとする。

「何のお話？」

「大きい人のお話」

そう、じいさまは、ねこじゃらしの下から、空を眺めた。

空の魚

ママ 見て お魚さん

目の玉 ギョロンで お口は ギザギザ
いぼいぼ うろこで ぼてえ としてるの

ママ 上だよ 青い海

空の魚 白いの

ママだって 分かるでしょう

月灯り

峠 山道 眉に唾
風が震わす 森の影
どきりと止まる 前 飛ぶ狸
はっと 後ろを 振り返り

此処には一人 空にも一人
今日は満月 道は明るい
帰りのお供は お月さま
だから 怖くない